

## 理事長挨拶



徳田 英幸

情報通信研究機構 (NICT) は、情報通信分野における我が国で唯一の国立研究開発法人として、ICT の高度化による社会課題の解決や新たな価値の創造を使命とし、その実現のために、日々、世界最先端技術の研究開発へのチャレンジをしているとともに、その社会展開・実装のためのオープンイノベーション推進の取組を一体的に進めております。

平成 28 年 4 月からスタートした第 4 期中長期計画 (平成 28~32 年度) においては、研究開発について、①センシング基盤分野、②統合 ICT 基盤分野、③データ利活用基盤分野、④サイバーセキュリティ分野、⑤フロンティア研究分野を 5 つの柱として、基礎的・基盤的な研究開発を推進するとともに、限られたリソースを活用して研究開発成果の最大化を実現するため、機構内部の連携を深化させてイノベーションを創出することと併せ、オープンな場を通じて、機構内外の能力を有機的に連携させてイノベーションを加速する取組を行うこととし、体制を整備して強く推進しております。

平成 29 年度には、研究成果の一層の推進のため、実践的なサイバートレーニングを企画・推進する「ナショナルサイバートレーニングセンター」や、次世代 AI 分野の研究開発を推進する「知能科学融合研究開発推進センター」を立ち上げました。さらに、自動翻訳システムの様々な分野への対応や高精度化を進めるため、総務省と共同で、関係者の皆様から広くご協力いただきながら様々な分野の翻訳データを集積・活用する「翻訳バンク」の運用を開始しました。ソーシャルイノベーションの実現に向けては、国内外において、研究機関・企業・大学・地方自治体等と IoT・ビッグデータ関連をはじめ様々な共同研究・実証プロジェクトを進めるとともに、NICT の技術を様々な企業に活用いただく活動や、ITU・IEEE 等での国際標準化活動も推進しました。また、より効率的に技術開発、国際展開や社会実装を進めるために、コンソーシアムやアライアンス間での国際連携を深化させるとともに、日 ASEAN、日米、日欧など国際的な研究開発連携を強化しました。

一方で、オープンな議論を通じて、若手の斬新な提案などにより新たな研究テーマの創出等を図るアイデアソンなどの試みを機構内で進め、また、地域発 ICT ベンチャー創出による地域活性化及び ICT 分野における我が国の国際競争力の向上を図るため起業家甲子園・起業家万博を開催するなど、それぞれの地域における社会的な課題解決に向けた取組を様々な機関とともに推進してきました。また、今後重点的に取り組むべき研究開発課題等についても、広く一般の皆様からの意見募集を行ってまいりました。このような取組につきましては平成 30 年度も発展的に継続し、機構の運営に活かす所存です。

NICT では、機構内でクローズすることなく、広く皆様と協力・切磋琢磨させていただきながら産学官連携活動を推進し、引き続き ICT 分野の更なる発展のために邁進してまいります。本年報が、NICT をご理解いただく一助として、更には、NICT との一層の連携推進にご活用いただければ幸いです。

今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。